



連合奈良の日(5月度)

働き方改革関連法案を職場に定着させよう！

5月10日実施予定だった連合奈良の日は、引き続きコロナ感染症の拡大予防のため街宣行動は中止としました。チラシ4,000枚を近鉄五位堂駅周辺に新聞折込みして街宣行動の代替としました。コロナ禍で多少なりとも働き方が変わってきている今こそ「働き方」改革を推し進めるチャンスかもしれません。

「働き方を改革しましょう」・・・「はい、分かりました」とは、中々なりませんよね。

「働き方」を改革するのは何のため？



連合奈良
働き方改革関連法案を職場に定着させよう！！

連合奈良 SNS発信はじめました！
毎月05日は連合の日

日本の生産性はなぜ低いのか？(2)

日本は社員数が多く労働時間が長い？

日本の労働生産性が著しく低い状況が続いていることは、No.82に記載した通りで、日本の賃金が上昇しないのも、働き方改革が上手くいかないのも、その多くは生産性の低さが原因だと言われている。

生産性が向上しなければ、状況は改善しない！という事か・・・

日本生産性本部がまとめた2017年における日本の労働生産性(時間当たり)は47.5 \$ で、主要先進国では最下位。1位の米国は72 \$、2位のドイツは69.8 \$なので、日本の生産性は米国やドイツの3分の2程度になる。比率の程度差は別にしてこの状況が1970年代からずっと変わっていないという現実をどう捉えればいいのか。

マクロ経済的には労働生産性と賃金には密接な関係があって、基本的に生産性が向上しないと賃金も上がらない、という事のようなのだ。生産性が伸びていない以上、賃金が上がらないのも当然、という理屈だが素直に受け入れられるか？

生産性が高い国は労働時間が短くなる傾向が顕著で、日本で長時間残業が横行していることも生産性の低さで説明がつくという結論になるらしい。

どうすれば生産性を上げることができるのだろうか。生産性を決める要素は、①付加価値、②労働者数、③労働時間の3つだから処方箋を考えるためには、①付加価値を上げるか、②労働者数を減らすか、③労働時間を減らすかの3つということになる。

考えよう！自分の労働時間

例えば、1万 \$ を稼ぐための時間と人数の比較では日本企業では平均29人の社員が7時間超の労働を行っている。米国企業は、労働時間こそ日本と同じ7時間だが、社員数はわずか19人。ドイツは25人と社員数は米国より多いが、労働時間は1時間以上も少なく6時間弱で済んでいるという調査結果があるようで現実を知ると何とも辛い。

仕事の優先順位やツールを工夫するなど一人でも出来ることはありそうだが・・・



コロナ感染予防

色々と不手際があったり、対応が遅かったり、可と不可の線引きが曖昧だったり、対策の要請が急だったり、国や自治体のCOVID-19対策に疑問の声が上がっている。一方で、〇〇地域は飲酒できないから◎◎へ行って飲もうとか、公園や道路に座り込んで「外飲み」などという報道を見ると批判ばかりもしていられない。街頭インタビューで「人出が思ったより多くて心配です」・・・あなたもその心配のタネですがねえ。

COVID-19が厄介なのは感染したのに症状が出ない「無症状感染者」が結構な割合で存在すること。本人は症状が出ないので感染したという認識が無い訳で体内からウイルスが消えるまでの10日程はウイルス

を撒き散らすことになる。症状が出る人も発症前2～3日は増殖したウイルスを拡散することになる。発症したら熱が出るようですから、さすがに当人は感染に気付くし会社も休むと思うので感染させるリスクは小さいかもしれませんが。

個人でできる感染予防対策には限りがあるが、よく考えればこれが一番効身のある対策のような気がする。

マスク着用



手指の消毒



感染は粘膜から・・・

口・鼻・目に触れる手指の消毒！
ウイルスは色んな物に付着しています。でも、粘膜に触れるのはやっぱり手